

自治医科大学
日本小児心身医学会会員 セミナー

雑誌の質を高めるための査読者・編集委員会の役割
—論文作成と査読は表裏一体—

自治医科大学附属さいたま医療センター
副センター長
小児科・周産期科

日本小児科学会雑誌編集会オブザーバー
細野 茂春

2024年2月17日

自治医科大学
COI開示

発表者氏名 : 細野 茂春

日本小児科学会の定める利益相反に関する開示事項に則り開示します

AstraZeneca
Japan Medical Company

自治医科大学
和文誌雑誌編集委員会との出会い

症例性**低血糖**を来した**完全性胆管閉塞**の1例(原著論文)
高橋 浩也(山形大学 発達生体の医学講座小児科学分野), 加藤 光広, 若林 涼, 松本 康子, 高田和博, 金井 雅
住 旭堂製薬, 室屋 淳
日本小児科学会雑誌(0001-6543)110巻6号 Page 789-793(2006.06)

この時、編集委員会に新生児を専門とする医師がいなかったため
栄養・代謝が専門の先生がハンドリング

Letter to editorへの対応が困難を極めた

2006年 編集委員会幹事
2010年 編集委員 2012年～2018年 Pediatric International編集委員
2014年 編集委員長
2020年 編集委員会オブザーバー

自治医科大学
論文作成・査読に関する講演

2015-2020年 小児科医のための臨床研修指導医講習会

2017年	第118回日本小児科学会
2016年	第119回日本小児科学会
2019年	第64回日本新生児成育医学会WS 第33回日本小児救急医学会
2021年	関東新生児教育セミナー
2022年	お茶の水曜会(順天堂大学)
2023年	日本新生児成育医学会第3回webセミナー 第126回日本小児科学会学術集会 モーニング実践講座 第126回日本小児科学会学術集会 特別企画 第68回日本新生児成育医学会 会長講演
2024年	日本新生児成育医学会第5回webセミナー

自治医科大学
到達目標

- 査読システムを理解する
- 論文執筆と査読は表裏一体
- 論文不正に関して理解する

自治医科大学
Reskilling

新しい職業に就くために、あるいは、今の職業で必要とされるスキルの大幅な変化に適応するために、必要なスキルを獲得する/させること

- ・ Reskilling
- ・ リカレント教育
- ・ 生涯学習

自治医科大学
KITTEI UNIVERSITY

PDCA

部門のビジネスモデルに対して最良の管理を追求

研究計画
Plan
Do
Check
Act

改訂稿作成 論文作成

査読

<https://blog.kodato.com/management-plan/pdca>引用

OODA: Observe (観察) Orient (状況判断) Decide (意思決定) Act (実行)
競争環境下での意思決定に重点を置き、迅速で正確な判断および素早い行動をとるための枠組み

自治医科大学
KITTEI UNIVERSITY

ICMJEの著者基準

Recommendations for the Conduct, Reporting, Editing, and Publication of Scholarly Work in Medical Journals
Updated January 2024

1. 研究の構想またはデザイン、あるいは研究データの取得、解析、または解釈に実質的に貢献した
2. 論文を起草したか、または重要な知的内容について**批評的な推敲**を行った
3. 出版原稿の最終承認を行った
4. 研究のあらゆる部分について、その正確性または公正性に関する疑義が適切に調査され、解決されることを保証し、研究のすべての側面に対して説明責任を負うことに同意した

<https://www.icmje.org/icmje-recommendations.pdf>

自治医科大学
KITTEI UNIVERSITY

論文執筆と査読の関係

表裏一体

論文執筆 査読

著者と共著者の関係 = 著者群と査読者の関係

自治医科大学
KITTEI UNIVERSITY

研究に対する教育

American Academy of Pediatrics

PASの期間中にさまざまなWS形式の講習会

- ・ 論文執筆
- ・ 研究費のとり方
- ・ 統計

自治医科大学
KITTEI UNIVERSITY

編集委員会の使命

良質の論文を遅滞なく公開する

Induction of Pluripotent Stem Cells from Adult Human Fibroblasts by Defined Factors

Kazuoichi Takahashi,¹ Koji Tanabe,¹ Mari Ohnuki,¹ Megumi Natara,^{1,2} Tomoko Ichisaka,^{1,2} Kichiro Tomoda,¹ and Shinya Yamanaka^{1,3,4,5}

¹Department of Stem Cell Biology, Institute for Frontier Medical Sciences, Kyoto University, Kyoto 606-8507, Japan
²CREST, Japan Science and Technology Agency, Kawaguchi 332-0012, Japan
³Regenerative Institute of Cardiovascular Disease, San Francisco, CA 94158, USA
⁴Institute for Integrated Cell-Matrix Sciences, Kyoto University, Kyoto 606-8507, Japan
⁵Correspondence: yamanaka@imf.kyoto-u.ac.jp
DOI: 10.1038/nat07711 (2019)

自治医科大学
KITTEI UNIVERSITY

編集委員会の使命

Induction of Pluripotent Stem Cells from Adult Human Fibroblasts by Defined Factors

Kazuoichi Takahashi,¹ Koji Tanabe,¹ Mari Ohnuki,¹ Megumi Natara,^{1,2} Tomoko Ichisaka,^{1,2} Kichiro Tomoda,¹ and Shinya Yamanaka^{1,3,4,5}

¹Department of Stem Cell Biology, Institute for Frontier Medical Sciences, Kyoto University, Kyoto 606-8507, Japan
²CREST, Japan Science and Technology Agency, Kawaguchi 332-0012, Japan
³Regenerative Institute of Cardiovascular Disease, San Francisco, CA 94158, USA
⁴Institute for Integrated Cell-Matrix Sciences, Kyoto University, Kyoto 606-8507, Japan
⁵Correspondence: yamanaka@imf.kyoto-u.ac.jp
DOI: 10.1038/nat07711 (2019)

山中教授	トンプソン教授	
投稿日	10月29日	10月9日
受理	11月12日	11月14日
公表	11月20日	11月20日

Induced Pluripotent Stem Cell Lines Derived from Human Somatic Cells

Jinying Yu,^{1,2}
¹Kim Sengue-Ohno,^{1,2} Jessica Antolencic-Bourget,^{1,2} Ilan H. Goshen,³ Jindan Gao,³ Victor Kozlov,³ et al. Thomson^{1,2,4,5}

自治医科大学
JIZU IKA DAIGAKU

編集委員会の使命 情報公開

年度	採択率 (採択数/総論文数)	採択論文数 (採択率)	採択論文の総数 (採択率)	採択論文の総数 (採択率)
2014年度採択論文 (採択率)	54% (35%)	2332 (2462)	2013年10月採択済	
2015年度採択論文 (採択率)	50% (35%)	2418 (2422)	2014年10月採択済	
2016年度採択論文 (採択率)	52.2% (31.2%)	2180 (2142)	2015年10月採択済	
2017年度採択論文 (採択率)	56.4% (35.0%)	2168 (2142)	2016年10月採択済	
2018年度採択論文 (採択率)	62.0% (33.3%)	2932 (2942)	2017年10月採択済	
2019年度採択論文 (採択率)	61.0% (33.3%)	2628 (2172)	2018年10月採択済	
2020年度採択論文 (採択率)	58.2% (33.3%)	2902 (2172)	2019年10月採択済	
2021年度採択論文 (採択率)	59.0% (34.3%)	2488 (2172)	2020年10月採択済	

自治医科大学
JIZU IKA DAIGAKU

査読者とは

査読者は、対象の論文や文章に対して客観的で公平な評価を行う能力を持っているだけでなく、専門知識や経験を活かして的確なフィードバックや提案を提供することができる人物です。査読者は、論文や文章の品質を向上させるために適切な指摘や改善点を提示し、著者にとって有益な情報を提供することが重要です。また、査読プロセスに対して誠実で責任感のある姿勢を持ち、公正な判断を行うことも重要です。

自治医科大学
JIZU IKA DAIGAKU

査読者

Dear Dr. Hosono:

I am writing to **invite** you to review a manuscript (Regular Article) that has been submitted to PEDIATRICS. Below is a copy of the abstract so that you may determine whether this paper is within **your field of expertise**.

PEDIATRICSに投稿された原稿 (Regular Article) を査読していただきたく、お願い申し上げます。
以下は抄録のコピーです。
この論文があなたの専門分野であるかどうかをご判断ください。

自治医科大学
JIZU IKA DAIGAKU

査読者はどのように選ぶか？

- その分野の研究を行っていることを編集者が知っている
- PubMedや雑誌データベース、等で検索し、当該論文に類似した論文を過去に報告している

その分野のエキスパートとして選ばれている！

海外では40代・50代前半が主流

自治医科大学
JIZU IKA DAIGAKU

査読者の役割

- 編集委員会が求めるもの
 - 論文掲載の是非を判断するために必要な情報の提供
 - 倫理的に問題のある論文の選別
- 著者に対して

掲載の是非を求めているの**目録**

投稿された論文がアクセプトされるかもしれないレベルまで改善するに必要な事を助言

自治医科大学
JIZU IKA DAIGAKU

倫理的に問題のある論文の選別

- 剽窃
- ねつ造 ギフトオウサーシップ
- 二重投稿

↓

編集委員会へ連絡

自治医科大学
FUKUOKA UNIVERSITY OF MEDICINE

査読者のお作法

掲載の是非を求めているのではないので
自分の判断と編集委員会の判断が異なっても
悪態をつかない

19

自治医科大学
FUKUOKA UNIVERSITY OF MEDICINE

査読過程

20

自治医科大学
FUKUOKA UNIVERSITY OF MEDICINE

カバーレター

- 研究結果とその妥当性・応用性を一段落で簡潔に要約する。→ サマリーを書くのではない!
- この研究の新規性と関連した研究分野における重要性・貢献度を記載
- 掲載先として当該ジャーナルが最適だと考える理由
- 提出原稿が過去に他誌に掲載されていたり、現在他誌に投稿されていたりしないという声明を記述する。必要とされる倫理指針に従っており適切な倫理委員会から承認を受けていることを述べる。
- 全筆者が最終原稿を確認して共著者として資格を要していることを記載する
- COIの開示

自治医科大学
FUKUOKA UNIVERSITY OF MEDICINE

査読システム

- Editor Kickの有無
- 査読者が1回目の改訂稿以降も査読を行う
- 1回目の改訂稿以降は編集委員会が査読を行う

自治医科大学
FUKUOKA UNIVERSITY OF MEDICINE

Editor jugdeの1例

Registered from ARCHIVES OF DISEASE IN CHILDHOOD - FETAL AND NEONATAL EDITION, January 2008, Vol 10, 1136/adv.2006.108902

Original article

Umbilical cord milking reduces the need for red cell transfusions and improves neonatal adaptation in infants born at less than 29 weeks' gestation: a randomised controlled trial

S Hosono, H Mujishima, H Fujita, A Hosono, M Minato, T Okada, S Takahashi, K Harada

自治医科大学
FUKUOKA UNIVERSITY OF MEDICINE

結果的に

自治医科大学
Jikei University

査読者の数

1. 2名で行い評価割れした場合は第三査読
2. 3名以上の査読者が査読

自治医科大学
Jikei University

査読過程

論文投稿 ↓ ↑ 編集事務局

- ・ IRBの必要性の判断
- ・ 統計記述の妥当性
- ・ 介入研究
- ・ 観察研究
- ・ ケースコントロール研究
- ・ ケースシリーズ
- ・ 症例報告

自治医科大学
Jikei University

IRBの必要性の判断

- ・ 介入研究
- ・ 観察研究

ケースコントロール研究
ケースシリーズ
症例報告

症例報告とケースシリーズの違い

症例報告：単一あるいは複数の患者の病気の診断や治療経過を詳細に報告したもの。それぞれの症例の特徴を詳細に記述し、一般的な事象はあくまで背景情報、一般化しきれない個別事例として扱うことを目的とする

ケースシリーズ：ある疾患、または同じ治療を受けた一連の患者群のみを対象とし、その疾患の特徴を測定・調査した研究報告のことであり、対照群との比較は行わない研究

症例数で分けるものではない！

自治医科大学
Jikei University

症例報告で代諾者の承諾・IRBが必要な場合

1. (長期) 予後不良な疾患で遺伝性疾患で家系図の掲載
2. 失敗事例
3. 虐待事例

等 裁判になることも考慮

欧米では最終投稿論文の代諾者の承諾が必要な場合もある

自治医科大学
Jikei University

症例報告で代諾者の承諾・IRBが必要な場合

患者に適応する前に病院の承認が必要

1. 未承認・適応外医薬品
2. 未承認医療器機器
3. 保険適応外でガイドライン未掲載の遺伝子診断

自治医科大学
Jikei University

統計記述の妥当性

統計学的手法が必要な研究

- ・ メタ解析 PRISMA 2020 Statement
- ・ ランダム化比較試験 CONSORT Statement
- ・ 観察研究 STROBE Statement

自治医科大学
Jikei University

統計記述の妥当性

使用した統計的手法

有意差の定義 欧米誌は結果に95%信頼区間が必須

統計ソフト名と会社名

* アスタリスク は科学論文では 使用法が決まっている

* $p < 0.05$.05
 ** $p < 0.01$.01

有意差を0.05で設定した場合 p 値が0.01以上は小数点2位まで記載
 0.01未満は $p < 0.01$

自治医科大学
Jikei University

どの統計手法をつかうか？

2群間検定
 平均値 対応の有/無
 割合 カイ二乗検定 フィッシャー正確確率検定
 症例数が20以下、40例以下で期待度数が5以下の群がある場合

	治療群	未治療群	合計
男児	5(26.3%)	14(73.7%)	19
女児	7(35.0%)	13(65.0%)	20
合計	12	27	

自治医科大学
Jikei University

どの統計手法をつかうか？

2群間検定
 平均値 対応の有/無
 割合 カイ二乗検定 Fisher正確確率検定
 症例数が20以下、40例以下で期待度数が5以下の群がある場合

	治療群	未治療群	合計
男児	5(26)	14(74)	19
女児	7(35)	13(65)	20
合計	12	27	

(%) ()内は%

自治医科大学
Jikei University

どの統計手法をつかうか？

3群間以上の比較
統計の専門家でないとは判断不能の可能性がある！
 多変量解析

特別委員として統計査読者の採用

木村 丈 京都大学大学院医学研究科デジタルヘルス学講座 特任助教
 酒井理恵 David Geffen School of Medicine at UCLA 准教授
 細野裕行 日本大学理工学部応用情報工学科教授

自治医科大学
Jikei University

オプトアウト

研究に参加した被験者が研究から自分の情報を除外することを意味する。これは、研究に参加した被験者が自分の個人情報やデータを研究から削除する権利を持つことを保証する。このような場合、被験者は研究チームに連絡し、自分の情報を研究から削除するように要求します。これにより、被験者は研究に参加することを拒否する権利を行使することができます。

論文記載

- ・ 期間 → 指針では示されていない
- ・ 方法 → 医療機関のホームページ

自治医科大学
Jikei University

オプトアウトとの形骸化

- ・ オプトアウト終了前の投稿
- ・ 多施設共同研究



論文が掲載されない理由

1. 論文の内容が雑誌が求めているものにあわない
2. 新規性がない
3. 論文の体裁をなしていない
症例や結果から得られた事柄と関係ないことが主体として考察されている
4. 読みにくい



査読者にどこまで求めるか

1. 論文の内容が雑誌が求めているものにあわない
2. 新規性がない
3. 論文の体裁をなしていない
症例や結果から得られた事柄と関係ないことが主体として考察されている
4. 読みにくい

新規性(novelty)とは

・優先性 (priority)

ある目的に対して、先行して新たな知見を与えたものの優先性としての新規性がある

・独創性 (originality)

その知見において既知のことから容易には導き出せない新たな発見が認められればその部分に対して独創性としての新規性がある



雑誌の投稿規定の位置づけ

- ・雑誌の投稿規定は基本的にはその雑誌固有の問題を規定している
- ・医学雑誌編集者国際委員会 (International Committee of Medical Journal Editors : ICMJE) 統一規定が上位にある
- ・個人情報保護法 / 守秘義務
- ・基本的人権



査読者の意志決定

- ・ Accept (変更無しで受理)
- ・ Minor revision (多少の改訂後に受理)
形式的な問題だけの場合
- ・ Major revision (大幅な改訂後に受理)
論理構成に問題がある場合
- ・ Reject (不受理)

本当に今のレベルから2回以内の改訂でacceptできるレベルまで修正できるのか？



Major vs. Minor

- ・ Minor revision
全て指摘された通り修正してなければ再修正指示
- ・ Major revision
指摘された点に対して
i. 対応不可能な項目 なぜ対応(修正)不可能かを明確に示されていた場合
↓
論文の本質に関わらなければ アクセプト

論文の本質に関われば リジェクト



査読結果の書き方

- 論文の要約
査読者がこの論文をどう理解したかをまず明示する
- 論文の評価(あいさつ代わり)
Accept/Rejectにはふれない
持ち上げることが多い 興味深い研究である等
- 問題点の指摘
Major comments
Minor comments



Reject

1. 新規性
 2. 論理性
 3. 結論の妥当性・信頼性
- 論文の内容から指示した改訂内容が達成できないと考えられる場合は最初からリジェクトする !
 - リジェクトでも可能な限りコメントして次回投稿の参考になるように記載する



御法度1

- 査読招待の放置
- 査読期限超過
- 生殺し(抽象的なコメント) 2度目の修正で終了を目指す
- 敬意をはらわない



御法度2

- **再査読での新たな問題の指摘**
- 持論を押しつけない
- 下請けに回さない(守秘義務)
- 著者に直接連絡しない



よい文章とは

伝えたいことが伝わる文章

1. 伝えたい主題が明確
2. 読者が知りたいことが書かれている
3. 一文は短く
4. 型と作法をはずさない



よみやすい文章とは

伝えたいことが伝わる文章



読み返す必要がない文章



1文は60文字以内

(Microsoft Wordでは初期設定は1行40文字)



一文60文字以内にする

1. 短期記憶の範囲内
2. 複数の主題が混在する余地が少なくなる
3. 主語と述語の関係が近くなる
4. 形容詞・副詞が厳選される



判断に迷ったら

- 貢献する卓越した質の研究
- 貢献する可能性があるが質に問題がある研究
- なんの貢献もしない質の低い研究

査読者はrejectよりacceptを推奨する



査読者の態度

あら探しは簡単

査読者は編集委員会に評価されている

自分の査読結果と編集委員会の最終結論が一致しなかった場合でも悪態をつかない

掲載の有無の最終決定権は編集委員会の責任で決めている



レビュワーへのコメント対応の実際

1. レビューワのコメントに対しては一問一答形式で答える
2. 修正原稿には変更部分を査読者別の色でハイライトする
3. 大幅な変更特に削除部分がおおい場合は変更前後の対照表をつける



責任著者Corresponding Author

Corresponding Authorはジャーナルとコミュニケーションをとって、論文を修正し、修正原稿を再提出する責任があります。責任著者は論文の正確さや整合性についても責任を持ちます

ジャーナルと十分なコミュニケーションをとれない人(論文掲載複数本実績のない人)はFirst authorとCorresponding Authorを兼ねない



投稿に慣れていない人がCorresponding Authorを兼ねる危険性

Corresponding Authorはジャーナルとコミュニケーションをとって、論文を修正し、修正原稿を再提出する責任がある。



Editorとやり取りが出来るのはFirst AuthorとCorresponding Authorだけ

自治医科大学
子ども心とからだ31巻3号 Page394-399(2022.11)

表題訂正

繰り返すアナフィラキシー様症状のエピソードを契機に限局性学習症の診断に至った女児例

医師が診断する 性別が特異的ならば残す

→
繰り返すアナフィラキシー様症状を契機に心理的評価で診断した限局性学習症

自治医科大学
子ども心とからだ30巻4号 Page535-540(2022.02)

表題訂正

ワクチン接種を契機に心因性非てんかん発作を繰り返し経過中に発症背景が判明してきた1例

不明瞭 1例は不要

→
内因的葛藤が原因と診断したワクチン接種を契機に発症した心因性非てんかん発作

自治医科大学

経過表

学会発表のものをそのまま使わない！

内容はより詳しく記載できる

black & whiteで明確に理解できるか？

自治医科大学

表現

- ・明確かつ簡単で不必要な文学的表現は避ける
- ・漢字は原則として常用漢字を使用し、かつ仮名遣いは現代かなづかいを用いる
- ・体言止めは避ける
- ・にて の乱用は避ける

自治医科大学

用語

- ・人名は原語
- ・薬品名は「～薬」
- ・薬剤名は日本薬局方名で市販名が必要な際は R を付記
- ・専門医学用語は学会用語集で確認 ○
日本医学会医学用語辞典
<http://jams.med.or.jp/dic/mdic.html>
日本小児科学会 小児科用語集
- ・菌名は原語でイタリック体
- ・動・植物名は原則カタカナ 人はヒト

自治医科大学

禁止

- ・より
近医より → 近医から
- ・にて
救急車にて → 救急車で
帝王切開にて → 帝王切開で
- ・ほう
産科のほうから → 産科から
検査のほうは → 検査結果は

自治医科大学
Jikei University

症例報告の見本

71 5歳の女兒。3日前からの高熱を主訴に母観とともに来院した。咽頭痛と食欲低下を認めるが、咳嗽や鼻汁は認めない。体温39.6℃。脈拍120/分。整。呼吸数28/分。SpO₂100% (room air)。活気良好。意識。顔色良好。眼球結膜に軽度の発赤を認める。咽頭の発赤を認め、口蓋扁桃に白苔の付着を認める。両側の頸部は径1.5cmのリンパ節を4個ずつ触知する。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。神経診察に異常は認めない。

横 指

体言止めは最小限に

認める 認めない

第116回医師国家試験A問題71

自治医科大学
Jikei University

症例報告の見本

医師国家試験長文問題

自治医科大学
Jikei University

図と表の違い

表: 文字・数字と罫線だけで構成されたもの

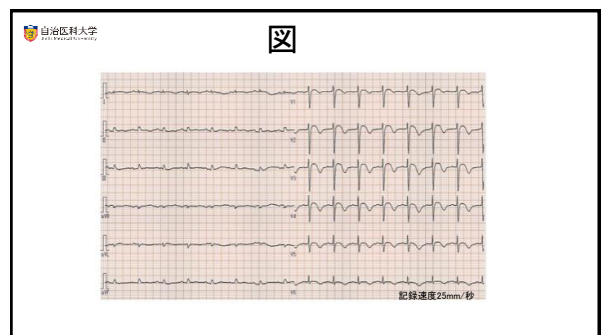
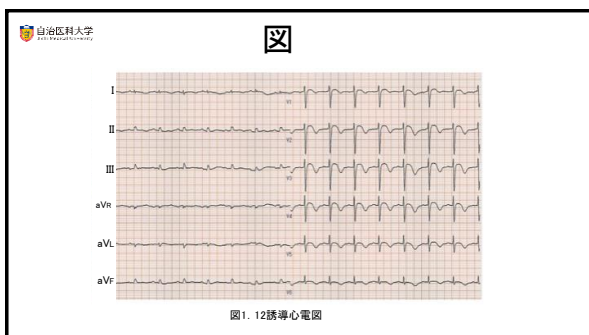
図: 表以外のグラフ、写真、模式図など、不定型なものすべて図

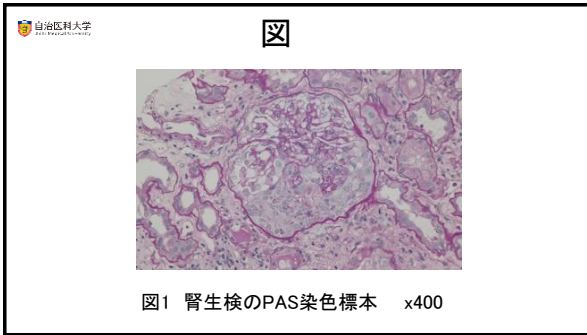
表はグラフ化が可能でデータの傾向、特徴、および推移が視覚化できる

自治医科大学
Jikei University

グラフの選択

割合を示す	→ 円グラフ
大きさ・量を比較	→ 棒グラフ
時間に対する連続的な変化	→ 折れ線グラフ
全体に対する比較	→ 積み上げグラフ

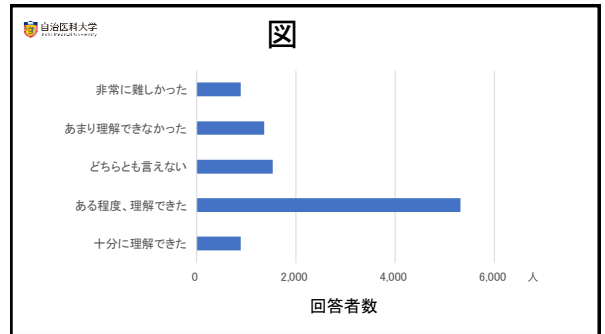
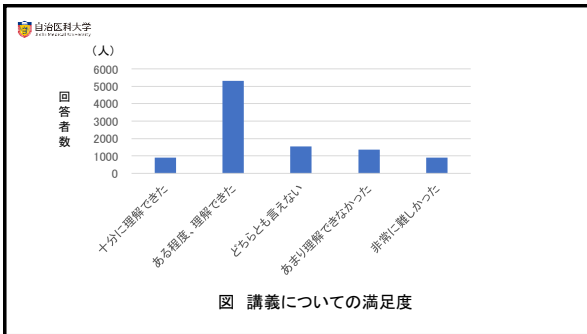




自治医科大学

表 講義についてのアンケート調査

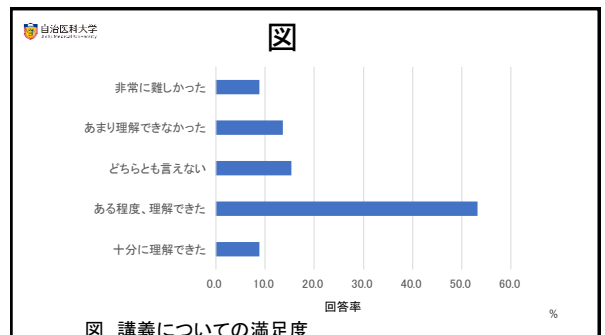
	人
十分に理解できた	89
ある程度、理解できた	532
どちらとも言えない	154
あまり理解できなかった	136
非常に難しかった	89

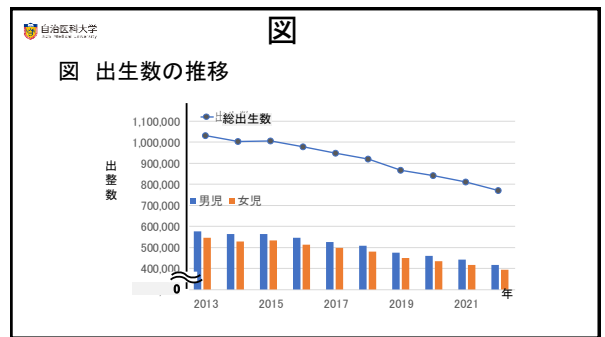
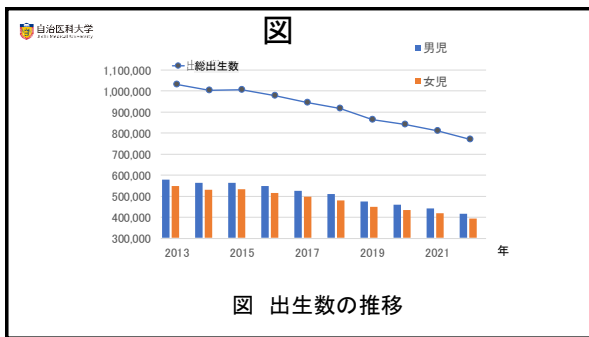
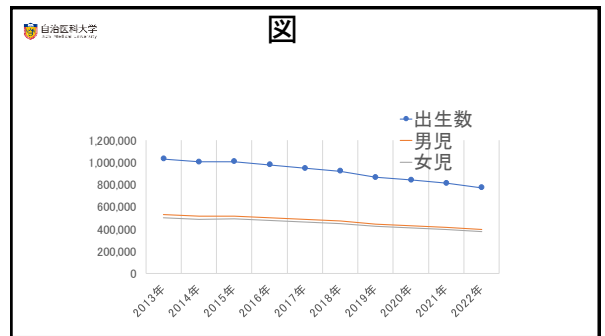
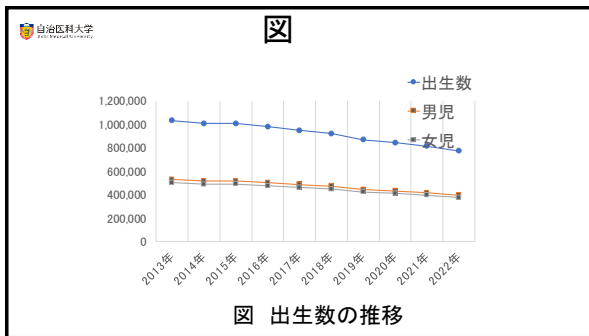
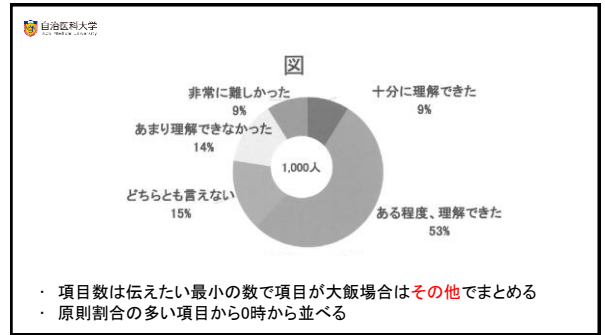
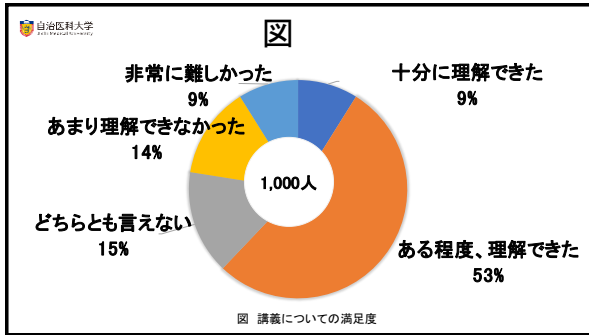


自治医科大学

表 講義についての満足度

	%
十分に理解できた	8.9
ある程度、理解できた	53.2
どちらとも言えない	15.4
あまり理解できなかった	13.6
非常に難しかった	8.9







グラフのまとめ

1. 目的にあったグラフを選択する
2. X軸、Y軸にはラベルが必要
3. Y軸は0で始まる
4. Y軸を中抜きする場合は2重波線を使う



表

表2. 合併症

	control	milking	p value
	n=17	n=18	
PVL	2(11.8%)	1(5.6%)	0.523
CLD at 4 week	4(23.5%)	4(23.5%)	0.612
CLD at 36 weeks	4(23.5%)	0(0.0%)	0.009
ROP \geq III	7(41.2%)	2(11.1%)	0.051



表

表2. 合併症

	control	milking	p value
	n=17	n=18	
PVL	2(11.8%)	1(5.6%)	0.523
CLD at 4 week	4(23.5%)	4(23.5%)	0.612
CLD at 36 weeks	4(23.5%)	0(0.0%)	0.009
ROP \geq III	7(41.2%)	2(11.1%)	0.051



表

表2. 合併症

	control	milking	p value
	n=17	n=18	
PVL	2(11.8)	1(5.6)	0.523
CLD at 4 week	4(23.5)	4(23.5)	0.612
CLD at 36 weeks	4(23.5)	0(0.0)	0.009
ROP \geq III	7(41.2)	2(11.1)	0.051
(%)			



表

表2. 合併症

	control	milking	p value
	n=17	n=18	
PVL	2(11)	1(7)	0.523
CLD at 4 week	4(24)	4(24)	0.612
CLD at 36 weeks	4(24)	0(0)	0.009
ROP \geq III	7(41)	2(11)	0.051
(%)			



表

表2. 合併症

	control	milking	p value
	n=17	n=18	
PVL	2(11)	1(7)	0.52
CLD at 4 week	4(24)	4(24)	0.61
CLD at 36 weeks	4(24)	0(0)	<0.01
ROP \geq III	7(41)	2(11)	0.05
(%)			

自治医科大学
JITOH UNIVERSITY

表

表2. 合併症

	control	milking	p value
	n=17	n=18	
PVL	2(11)	1(7)	0.52
CLD at 4 week	4(24)	4(24)	0.61
CLD at 36 weeks	4(24)	0(0)	<0.01
ROP \geq III	7(41)	2(11)	0.05

(%) PVL: periventricular leukomalacia, CLD:

自治医科大学
JITOH UNIVERSITY

表

表2. 合併症

	control	milking	95%CI	p value
	n=17	n=18		
PVL	2(11)	1(7)	0.04 - 5.37	0.52
CLD at 4 week	4(24)	4(24)	0.12 - 3.46	0.61
CLD at 36 weeks	4(24)	0(0)		<0.01
ROP \geq III	7(41)	2(11)	0.09-1.39	0.05

(%) PVL: periventricular leukomalacia, CLD:


自治医科大学
JITOH UNIVERSITY

表のまとめ

1. 罫線は最小限で
2. まとめられる標記は表内に書き込まず欄外で説明
3. %は分母が100以下なら整数
4. p valueより信頼区間
5. 有意差を0.05としていれば小数点以下2位有効数字
6. 有意差を0.05としていれば0.01未満は $p < 0.01$
7. 略語はスペルアウト
8. * には意味がある

自治医科大学
JITOH UNIVERSITY

参考資料



限られた時間ですので
詳細を知りたい方は
ご参照下さい

今日は最近の話題(問題)
についてお話ししました。

自治医科大学
JITOH UNIVERSITY

小児領域学術誌編集者合同会議

タイトル: 小児領域学術誌編集者合同会議
日時: 2024年2月22日(木)

1. 査読関連
2. 倫理的な問題
3. 生成AI
4. 投稿数や質の担保について
5. 上記をうけて、共通の投稿規定の作成について検討

Take Home Message

- 査読者は自分が始めて投稿した時のの気持ちを思い出して査読にあたる
- 働き方改革で査読者探しが困難を極める時代が来る可能性がある
- 編集委員会は査読者の負担を減らす努力する



謝 辞

本セミナーを企画して下さいました
一般社団法人 日本小児心身医学会

編集委員長 田中恭子 先生
および

理事長 永光信一郎 先生

に深謝致します。

連絡先：hosono.s@jichi.ac.jp

ご清聴ありがとうございます

*Sharing and Spreading
the MOTTAINAI message.*

"MOTTAINAI" というメッセージを、
皆で分かち合い、広めていきましょう。

